

第一回中間報告

(2022年9月12日~2022年12月7日)

国際ロータリー第2710地区 2022-2023年度

グローバル補助金

奨学生：丹羽 美咲

1. 報告書提出日：2022年12月24日 第1回報告

2. 基本情報：

派遣ホストクラブ及びカウンセラー：福山南ロータリークラブ、阿部晋士様

受け入れホストクラブ及びカウンセラー：Rotary Club of Corstorphine, Mr. Forbes Howie

教育機関：エディンバラ大学

専攻分野：比較教育及び国際開発(MSc Comparative Education and International Development)

3. 学業面での成果：

私の所属するコースは今年度新設され、生徒数が20人程度と比較的に少ないことが特徴です。そのため、授業中には教授やクラスメイトと議論をする機会が多くあります。カリキュラムは、10週間にわたる一連の授業で1モジュールが構成されており、1学期には必修科目2つ(各20単位)・必修科目(10単位)・選択科目(20単位)、2学期には必修科目(10単位)・選択科目2つ(各20単位)、その後、修士論文(60単位)の合計180単位を取得します。

クラスメイトのバックグラウンドは、教師・大学職員・NPO関係・教育コンサルタントなど様々です。授業内だけでなく、授業外でも教授やクラスメイトとの距離が近く、学校内のイベントと一緒に参加をしたり、週末には登山やパブで交流したりしています。また、私はイベント企画チームに参加をしているので、PhDパネル・ロンドンでの企業研修・地元の団体との交流の企画などに関わっています。



1学期に取得した授業：

Introduction to Education and International Development (教育と国際開発入門)



国際開発に関する歴史を紐解きながら、国を超えた教育支援が発展途上国に与えてきた影響や、国連や国際組織の成り立ちや影響を学習するという内容でした。国際開発で頻繁に用いられる理論や枠組みを理解し、開発や発展の定義やこれまでの軌跡について学習をしました。

中間試験はディベートでの評価で、私のチームはコースメイトと3人組でした。私たちのチームは「SDGsなどの国際的な共通目標は、国際開発に良い影響を与えるか」に対して反論側の立場からディベートに臨みました。理由としては、開発という

定義は国や地域によって違うということ、共通目標が発展に寄与しているかを測る指標に課題があるこ

などを挙げました。最終評価はレポートの作成で、インドにおける学校でのジェンダーに関する課題について文献を通して分析をしました。

Introduction to Comparative Education (比較教育入門)

比較教育学において使用されている理論や著名な教授の研究論文について学び、教育を比較する際の指標や近年焦点を当てられている主題について学習をするという内容でした。グローバル化と比較教育の関係・新自由主義が与える影響・教育政策の取入・先住民族の知識などが主題として取り上げられていました。特に興味深かった主題としては、国を超えた教育政策の借用で、借用の動機や影響、またその過程での教育政策の変容について学ぶことができました。中間試験では、グループでポスターを作成しポスターセッションで発表をするというものでした。私たちのグループは、新自由主義がイギリスとアイルランドの高等教育に与えた影響について分析をし、そこから予測される課題について発表をしました。最終評価のレポート作成では、国際的な方針が与える日本の教育政策借用について、授業で学習した枠組みを使用し分析しました。

Sources of Knowledge (知の源)

論文を執筆するにあたって必要な基本的な知識を学びました。特に、知識の定義、論文を作成する際に肝となるパラダイムをどう捉えるのかなど哲学的な側面から学習をしました。動画での学習と対面授業で授業が構成されており、事前学習をした後に授業に臨むというスタイルでした。評価課題内容としては、コンセプトマップの作成と文献解題の作成が求められました。コンセプトマップでは、授業を通して学習したパラダイムや社会科学の研究における特徴などを細かく図にするというものでした。文献解題では、授業で使用した文献の中から4つの文献を選び、その文献の批評をしたり、本授業を超えた概念との繋がりを見つけたりするというものでした。

Global Governance and Education (国際統治と教育)

主に世界銀行・ユネスコ・経済協力開発機構・ユニセフが発展途上国に与える教育政策のメカニズムや影響、現代の国際統治の特徴について学習しました。良い統治とは何か、SDGsやPISAなどのグローバル指標が国や地域にどう影響しているのか、国際機関によってミッションの違いがどう教育ポリシーに反映されているかなどを学びました。評価課題はディスカッション・国際機関が提示するポリシーを比較・分析したレポート作成・ポリシーブリーフの3つで構成されていました。ディスカッションはグループワークだったので、グループメイトと3人で協議を重ねました。内容としては、国際機関が南米で行った教育ポリシーの施行の事例を通して、各国がどのように政策を受け入れ運用しているのかを議題として話を進めました。レポート作成では、世界銀行とユネスコを比較する国際機関として選択し、アフリカのシエラレオネへどのような教育のアドバイスをどのエビデンスを元に行っているのかについて対比しました。3つ目のポリシーブリーフでは、SDGs4のターゲットの一つである「質の高い教員の数を増やす」ために、シエラレオネの教育省へ向けたポリシーブリーフを作成しました。

4. 受入地区でのロータリーとの関わり、奉仕活動、カウンセラーとの交流



10月2日に、留学生を受け入れているエディンバラ全域のホストクラブの集まりに参加し、交流をしました。また、10月4日には受け入れホストクラブでのディナーに招待していただきました。そこでは、スライドを用いて自己紹介をしたり、ロータリアンの方々と交流したりする機会をいただきました。10月22日-23日には、Peebles Hydroにて開催された District1020 Conference に参加をしました。多くのゲストスピーカーの話聞かせていただいたり、ロータリアンの方々と他の奨学生と交流したりすることができました。



また、登壇をしたの奨学生と共に自己紹介をし、ロータリアンの方々に温かく迎え入れていただきました。ディナーを終えた後には、スコットランドの伝統的な踊りであるケイリーと呼ばれるフォークダンスを踊りました。11月には、国際イベントに招待していただき、バンドの演奏を聴きながらロータリアンの方々と交流をさせていただきました。



現地カウンセラーの Forbes さんは、出国前から連絡を取ってくださり、9月初旬にエディンバラに到着した日には空港まで迎えにきていただき、開寮前だったことから1日自宅に宿泊させていただいたり、大変お世話になっています。ロータリーの集まりと一緒に参加するだけでなく、ラグビーの試合に招待していただいたりと、頻りに声をかけてく

ださり、安心して留学生を送ることができています。

5. 今後の目標

今後の目標は、2学期の授業に積極的に臨むことはもちろん、修士論文の作成に向けて着実に準備をしていきたいと思ひます。また、コースディレクターのSDGs4のモニタリングに関わる研究論文の執筆に協力者として参加させてもらおう予定なので、データの分析や執筆に貢献し、学びたいと思ひます。